

2017年9月11日  
日本労働組合総連合会  
神津 里季生

[ 発言要旨 ]

- 連合は、めざすべき社会像として「働くことを軸とする安心社会」を掲げている。また、現在、2035年を見据えつつ人口減少・超少子高齢社会に向けたビジョンの検討を進めている。
- 社会は、多くの人たちが働き、互いに支え合うことで成り立っており、私たちは、「働くこと」を通じて結びつき、社会を支えている。「働くこと」は、「人生100年時代」を構想するにあたって極めて重要な要素である。
- 「働くこと」につながるには、雇用環境の整備を始めとして、教育の機会均等、ワーク・ライフ・バランスの実現、安心を担保する社会保障、雇用のセーフティネットなど、様々な環境整備が必要である。
- 連合は、「人生100年時代」が活力あふれる社会となるよう、「働くこと」に焦点を当てて教育、社会保障など幅広い分野の議論に積極的に参画していく。

# 連合のめざす「働くことを軸とする安心社会」

働くことに最も重要な価値を置き、誰もが公正な労働条件のもと多様な働き方を通じて社会に参加でき、社会的・経済的に自立することを軸とし、それを相互に支え合い、自己実現に挑戦できるセーフティネットが組み込まれている活力あふれる参加型の社会

**教育と働くことをつなぐ橋**  
 働くために必要な学力を修得する機会を保障。

**家庭と働くことをつなぐ橋**  
 介護や子育てで働くことをあきらめない制度の整備。

**働くかたちを自由にする橋**  
 公正なワークルールのもと、自分の意思で働き方を選べる制度の整備。

**失業と働くことをつなぐ橋**  
 失業してもやり直せる制度の整備。

**退職と働くことをつなぐ橋**  
 生涯現役でいられる制度の整備。

